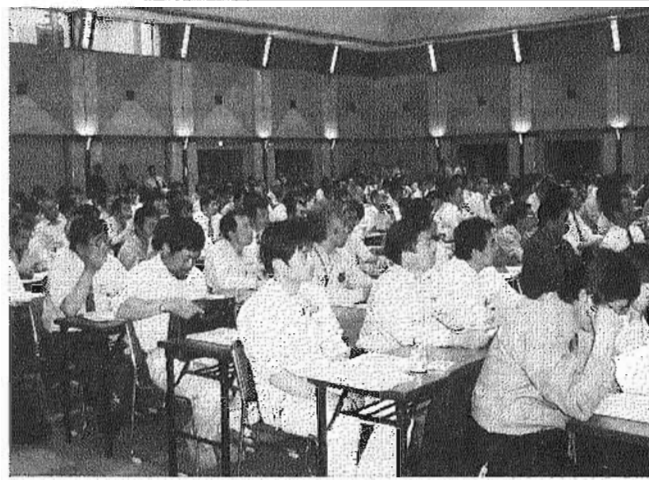


公庫制度改正等学級

県と県住宅・建築総合センター共催の「15年度住宅関係制度説明会」は23日、鹿児島市の県庁講堂で開かれ、約450人が参加して、公庫制度改正事項や優良住宅制度、環境共生住宅などについて学んだ。



約450人が参加して行われた説明会
＝鹿児島市の県庁講堂で

説明会の冒頭、春原浩樹県土木部住宅課長が「県内の住宅着工戸数は前年度比9・5％減少し、厳しい状況が続いている。良質な制度を積極的に活用していただくため、今日はさまざまな制度を勉強し、身に付けてほしい」と挨拶。

続いて説明会に入り、住宅金融公庫南九州支店の宮内氏が公庫制度改正事項等について解説し、住宅金融公庫の事業計画、融資の重点化・スリム化、リフォームローンの融資承認時期の変更など制度の改正事項を詳しく説明した。

また、県住宅課の各担当

県内7店と熊本、宮崎に各1店の合計9店体制でFICのユニバーサルホーム及びオリジナルブランドの住宅事業を展開している鹿児島県住宅（仙田次雄社長）は23日、鹿児島市山田町に全国最大規模となる庭家館を開館披露した。

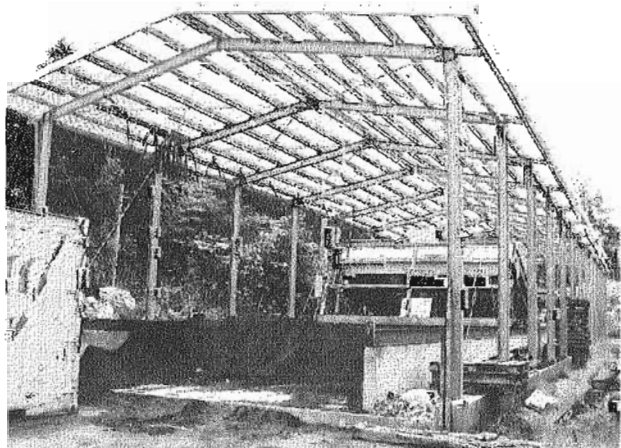


全国最大規模となる庭家館
＝鹿児島市山田町で

家生かす庭づくり

同館は24日の一般オープンに先立ち、同社の15周年（150棟の引渡し実績）に合わせ家づくりの庭づくりをプラスし一括した提案をしたいとの考えから、300種以上のエクステリア等を展示する展示場をオープンする。展示は柱、門扉、外柵、ウッドデッキ、タイヤ、ブロック、フェンス、カーポート等を実際に等身大のモデルを使い設置しているほか、各種関連資機材類、グッズを販売する。従来分かったりなかった料金についてもそれぞれ表示し明確にしている。また、お客がゆつくりとくつろぎたい空間を感じられる空間スペースを提案したいとの思い

木くず循環処理施設 自治体からも問い合わせが



同施設内にある攪拌発酵槽
＝東市来町の処理施設内

「木くず再処理は人口よりも出口に多くの課題を抱えているので、これ何と解決でき、循環型処理施設として機能しているの目処がついた」（同社長）と話していた。近隣の自治体から問い合わせや見学もあるなど、順調に動き出した。受け入れる木くずは直径50センチまで、土日は除く午前8時から午後5時まで。場所は市来町入り口近く。詳しくは、同社（日置郡伊集院町妙円寺1-17）に電話（099-273-3272）まで。

更なる繁栄を祈念

創立30周年記念祝賀会

（株）南日本新聞オフセット輪転（大園純也社長）は23日、鹿児島市の城山観光ホテルで創立30周年記念祝賀会を開き、取引先の新聞社や業界関係者ら約100人が出席して、繁栄を祝うと共に益々の発展を祈念した。

祝賀会では初めに、大園社長が「昭和48年、南日本新聞社と県内最大手の印刷会社である南上印刷（株）が中心となって会社を設立し、今年で30周年を迎える。これもひとえ

（株）南日本新聞オフセット輪転 創立30周年記念祝賀会

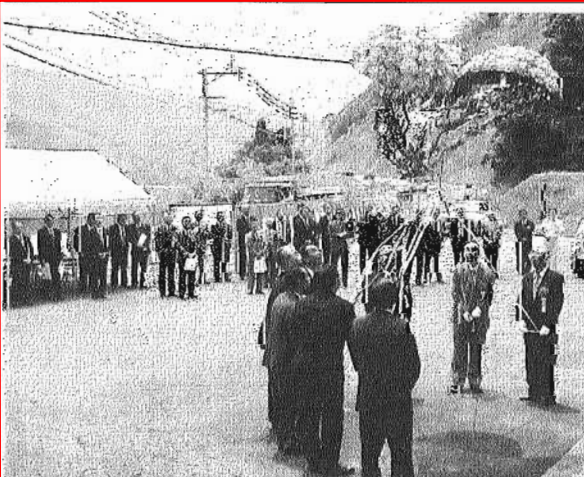


今後も信頼性のある高い品質を提供していきたい——と挨拶する大園社長＝鹿児島市の城山観光ホテルで

「印刷文化・活字文化を担う、御社への期待は大きい。今後の更なる発展を祈念致します」とそれぞれの立場から祝辞を寄せた。

このあと、乾杯の音頭で祝宴に移り、奄美島嶼などの余興などで会場は盛り上がり、30周年の節目を祝うと共に今後益々の発展を祈念し、杯を酌み交わした。

なお同社は、このほど半裁輪転機の高速度化、カラー増を目指し、東京機械製タワ型輪転機カライトップ3000を導入。本日、始動式を行い本格的に移動を始めた。



くす玉を割り竣工を祝う関係者
＝川内市の丸山共同取水場で

県営かんがい排水事業「川内右岸地区」の竣工式が23日、川内市の丸山共同取水場で行われ、関係者約40人が出席し、構想から20年を要した同事業の完成を祝った。

式は、神官による祝詞奏上などに続き、森卓朗川内市長や星野清治川内耕地事務所長らが玉串奉てんを行い、くす玉を割

「川内右岸地区」の竣工式が23日、川内市の丸山共同取水場で行われ、関係者約40人が出席し、構想から20年を要した同事業の完成を祝った。

式は、神官による祝詞奏上などに続き、森卓朗川内市長や星野清治川内耕地事務所長らが玉串奉てんを行い、くす玉を割

農水等を安全・安定供給

川内右岸地区竣工式

県営かんがい排水事業「川内右岸地区」の竣工式が23日、川内市の丸山共同取水場で行われ、関係者約40人が出席し、構想から20年を要した同事業の完成を祝った。

式は、神官による祝詞奏上などに続き、森卓朗川内市長や星野清治川内耕地事務所長らが玉串奉てんを行い、くす玉を割

「川内右岸地区」の竣工式が23日、川内市の丸山共同取水場で行われ、関係者約40人が出席し、構想から20年を要した同事業の完成を祝った。

式は、神官による祝詞奏上などに続き、森卓朗川内市長や星野清治川内耕地事務所長らが玉串奉てんを行い、くす玉を割